

令和7年度第4回川崎市上下水道事業経営審議委員会 会議録

【開催日時】

令和8年1月13日（火） 14:00～17:05

【開催場所】

川崎市役所本庁舎 203・204会議室

※オンライン（Zoom）併用開催

【議題】

- （1）令和6年度の財政状況・経営指標について（公開）
- （2）次期上下水道ビジョン・中期計画の策定について（公開）
- （3）水道事業及び下水道事業の料金制度等のあり方について（答申・案）（非公開）

【出席者】

- （1）委員会委員（敬省略）※オンライン出席者

磯貝和敏、井出多加子※、鎌田素之、齋藤利晃、長岡裕、中野英夫、西川雅史、島田典子、伊藤真冬※、山下美穂

- （2）上下水道局職員

上下水道事業管理者、担当理事・下水道部長、経営戦略・危機管理室長、総務部長、総務部担当部長（財務担当）、サービス推進部長、水道部長、水管理センター所長、下水道部担当部長（下水道施設）、経営戦略・危機管理室担当課長〔経営戦略・企画調整〕、経営戦略・危機管理室担当課長〔料金・使用料制度〕、経営戦略・危機管理室担当課長〔行政改革推進〕、経営戦略・危機管理室担当課長〔国際事業推進〕、庶務課長、財務課長、財務課担当課長〔下水道財務・財源〕、サービス推進課長、水道計画課長、下水道計画課長

【傍聴者】

0人

【議事内容】

次のとおり

事務局 それでは定刻となりましたので、令和7年度第4回川崎市上下水道事業経営審議委員会（経営戦略・危機管理室長）を始めます。私は、事務局を務めます、経営戦略・危機管理室長の森川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、オンラインと併せての開催となっており、井出委員、伊藤委員におかれましては、オンラインでご出席いただいております。オンラインでご出席の皆様、音声は聞こえておりますでしょうか。

なお、本日の会議でございますが、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3

条の規定に基づき、議題1、議題2につきましては公開といたしますが、議題3につきましては、同条例第5条第3号に規定しております、「川崎市内部の審議、検討又は協議に関する事項であり、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ」に該当すると考えますので、事前のアナウンスが足りず申し訳ございませんが、この場で委員長へお諮りして非公開といたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

長岡委員長 委員長としては非公開で構わないと思いますが、委員の皆様はよろしいでしょうか。
(異議なし)

長岡委員長 それでは、議題3につきましては非公開ということにいたします。
事務局 ありがとうございます。

(経営戦略・危機管理室長) また、会議終了後、議事録を作成いたしますが、非公開の議題3を除いて原則公開となっておりますので、事務局で作成後、各委員に内容を確認していただいたのち、確定させてまいりたいと考えております。

なお、本日は傍聴の申し出がいらっしゃらないようですので、早速委員会を始めたいと思います。

オンラインでご出席の委員の方につきましては、ご発言の際は、ビデオを開始し、挙手いただくか、挙手ボタンを押していただきますよう、お願いいたします。委員長から指名いたしますので、ご発言をお願いいたします。

また、ご発言の際には、オンライン出席者にも声が聞こえるよう、マイクを近づけてご発言くださるようお願い申し上げます。それでは、次第に沿って進めます。

はじめに、白鳥上下水道事業管理者からご挨拶を申し上げます。

事業管理者 ただいまご紹介いただきました上下水道事業管理者の白鳥でございます。

まず初めに、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。また、新年ご多忙のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の議題でございますが、次第でございますとおり3件あり、そのうちの2件は非常に重要な議題で節目を迎える内容となっております。

1つ目は、「次期中期計画」の案となっており、3月までに成案にして、前回お示しした「上下水道ビジョン」と併せて公表していきます。「中期計画」は今後4年間の具体的な行動計画となりますので、本市の上下水道事業をよりよい方向に進めていくためにも是非さまざまなご意見を賜りたいと考えております。

また2つ目は、「水道事業及び下水道事業の料金制度等のあり方について」の答申案として、本委員会の下部組織である部会で検討を重ね、答申案として取りまとめたいただきましたので、ご報告をいただきます。私は諮問している立場ですので、議題3につきましては退席させていただきます。こちらについては、答申をいただくことになっております2月2日以降は公開となりますが、それまでの期間は非公開となっております。

来年、水道は30年ぶり、下水道は20年ぶりに料金制度等のあり方が見直され、市民生活に密にかかわる内容となっております。限られた時間ではございますが、十分にご審議いただきまして、率直なご意見等を賜りたいと考えております。

簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 次長に長岡委員長から一言ご挨拶をいただければと存じます。長岡委員長よろしく
(経営戦略・危機管理室長) お願いいたします。

長岡委員長 委員長を務めております長岡です。本日もよろしくお願いいたします。

本日は議題にありますように、前半は「経営状況」と「次期中期計画」をご説明いただきます。水道と下水道に共通しておりますが、水道管路は耐用年数 40 年、下水道管路は 50 年ということで、長期間のビジョンが必要な都市インフラとなっています。資金がいくらあったとしてもすぐに耐震化できるわけではない性質もありますので、長期的なビジョンが絶対に必要となる事業です。このような事業であることを市民の皆様を知っていただくことが大切だと思っています。しかしながら、水道は蛇口をひねれば水が出て、下水道は流せば流れていくことは、都市インフラがあつてこそその当たり前という認識がなかなか市民に伝わっておらず、非常に問題だと感じております。

後半の「料金・使用料制度」の議題につきましても、そういったことを市民に伝えることが大切だと思えます。その上で、料金・使用料を改定することを了解していただくということが必要だと思えます。部会で 9 回にわたりまして議論を重ねてきました答申案を、本日この場で委員の皆様にご意見をいただいて答申にしていきますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 委員長ありがとうございます。

(経営戦略・危機管理室長) それでは、要綱によりまして、委員長が議長となりますので、ここからの会議の進行につきましては委員長、よろしくお願いいたします。

長岡委員長 それでは、本日の議題に入ります。

議題 1 の「令和 6 年度財政状況・経営指標」事務局からのご説明をお願いいたします。

経営戦略・危機管理室担当課長 (議題 1 を説明)

長岡委員長 ありがとうございます。それでは、ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

私からひとつございまして、資料 1 の P. 6 工業用水道事業の財政状況について、減量負担金制度導入に伴う負担金収入で一時的に潤っているように見えますが、来年度以降は厳しくなるということによろしいのでしょうか

経営戦略・危機管理室担当課長 そのとおりでございます。今後は厳しくなっていきますので、次期中期計画の中で財政状況について検討を進めていきます。

長岡委員長 他いかがでしょうか。

それでは次の、議題 2 の「次期上下水道ビジョン・中期計画の策定について」ご説明をお願いいたします。

経営戦略・危機管理室担当課長 (議題 2 を説明)

長岡委員長 ありがとうございます。それでは、ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

西川委員 3 つ教えていただきたいことがございます。

1 つ目が、資料 4 の P. 31 と P. 34 の右下にある指標は、1 年分と 4 年分が示されておりますが、全体の延長が何 km ある中での目標なのかわからないのですが、分母に対してどのくらいかという見せ方はしないのでしょうか。

2 つ目ですが、P. 43 右下のグラフは、横軸は被害想定額などで積算できると思いますが、縦軸の浸水の起こりやすさは積算が難しいと思います。どのように積算されているのでしょうか。

3つ目ですが、P. 76 の指標は、民間企業だとよく退職率が使われているイメージですが、外から拝見していると皆さんの職員退職率は非常に低いと思うので、問題があるのかもしれませんが、もう少しシビアな数値を設定してはどうでしょうか。

水道計画課長

1つ目のご質問ですが、資料4のP. 31の右下にある指標の対象としている水道管路の全体の配水管延長は約2,400kmございまして、機材を使用して調査ができる小口径管路は約2,200kmです。基本的に1年間で790kmの調査を行っている割合になります。漏水の危険度で周期を設定しておりまして、危険度が高い要素を持った管路は1年に一度、危険度が下がるにつれ2年に一度など段階はございますが、少なくとも4年に一度調査を進めると市内の対象の管路に対して調査を完了することができます。

長岡委員長

今の回答のような解説は記載できないのでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長

P. 30の右上の表で示しております。

下水道計画課長

2つ目のご質問ですが、資料4のP. 34の右下にある指標は、約3,000kmを超える管きよの内、合流管と雨水管については10年に一度、汚水管については5年に一度と、定期的なサイクルを設定した上で、4年間の活動指標を示しております。全体のボリューム感やルールを記載した方が良いとのことですが記載できておりません。追加する方向で検討いたします。

またP. 43の右下の図の縦軸「浸水の起こりやすさ」についてでございますが、下水道は、5年に一度の確率の降雨と、10年に1回の確率の降雨、80年に1回の確率で起こる既往最大降雨の3つを、地区ごとに、整備水準を定めながら計画を進めています。それぞれの地区ごとに、各確率降雨における浸水被害を求め、それぞれ年当たり確率に均して「浸水の起こりやすさ」を定量化しています。

庶務課長

続きまして3つ目のご質問である、P. 76 エンゲージメント率についてですが、今までの中期計画では、人材育成の取組の浸透度という指標を設定していましたが、策定から4年間の経過し、より人材の定着や職員の幸せといった観点も含めて新たな指標を検討した中で、今回は職員のやりがいや成長、愛着という3つの項目で指標設定したところで

西川委員からの、指標をもう少しシビアに設定してはどうか、というところについては、現状の割合が68.1%という中で80%の目標設定は達成できるか否かということもあり、シビアな指標値だと認識しています。

長岡委員長

その測り方は記載できますか。これだけではエンゲージメント率の計算方法が曖昧であり、どこかには示す必要があると思います。

経営戦略・危機管理室担当課長

付属資料で各指標の算出式を説明しておりますので、追記できればと思います。

西川委員

アンケートの回収率はどの程度でしたか。

庶務課長

前は約7割でしたが、今回は約9割です。

西川委員

約7割以上の方が回答しているのですね。それだけ多くの方が回答していることは意外でした。ありがとうございます。

長岡委員長

他にはいかがでしょうか。

鎌田委員

先ほどの西川委員のご意見と重複するところもありますが、各ページの右下の指標の数値は、パーセントで揃えて記載した方がよいように思います。母数が件数しかないのであれば仕方ないと思いますが、例えば資料4のP. 44では、パーセントが括弧書きとなっ

ていますが、90%を超えているので、読み手に与える印象は良くなり、市民の方も見やすいと思いますので、ご検討いただければと思います。

また、資料4のP.73では、お客様対応の取組が示されていて、今回は記載のとおりでよいのですが、水道事業や下水道事業以外の多くの問合せが、例えば電車で忘れ物をした場合、電話の問合せではなくチャットでのお問い合わせとなっています。そういった対応が指標の「AI活用」に該当すると思いますが、電話応答率を現状の80%から85%に上げる目標について、経営という視点では、電話が繋がることはサービスとしては良いといえるものの、経費も伴うことなので、今の時代では、水道事業や下水道事業として85%以上の目標設定が、経営上望ましいことなのか疑問があります。先ほどの電車の話や、宅配サービスにおいて、どんどん省力化されている中で、無理にこういった指標を入れない方が、時代の流れに沿っているかと思いました。ご検討いただければと思います。

長岡委員長
中野委員

今のご意見を参考にして検討してください。他にはいかがですか。

資料4のP.85とP.89についてですが、ご説明いただいたように財政収支の将来値が全体的に赤字になってしまっています。前回の中期計画でも同様でしょうか。

赤字が生じてしまうので経費を削るなどして収支のバランスが取れるように示すものだと思っていたのですが、いかがでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長

前回の中期計画では、今回のような赤字の計画は設定していません。後段の議題3とも関連するのですが、現段階ではこの形でお示して、料金制度等のあり方について方針が決まった段階で、財政収支等について再設定していくことを考えています。

中野委員
経営戦略・危機管理室担当課長

財政収支の再設定については、ある程度は前提としているわけですね。

そのとおりです。

中野委員

新規の投資や更新があるから料金・使用料改定を行うということですよ。投資や更新をしてもしなくても計画は赤字となっているのですよね。

長岡委員長

このままでは赤字になります、ということですね。おそらくですが、やらなければいけないことは決まっているので必要経費は削るわけにはいかないという前提での話です。

ですから、収入見込みに合わせて投資を減らせば赤字は生じないけれど、必要な投資は削れない、ということだと認識しています。

中野委員

必要な投資が決まっているから、これまでと同じ料金・使用料体系では、赤字が生じてしまう、ということですね。

長岡委員長

収入に合わせて経費も減らすということは、多少はあるかもしれませんが、極端に減らすということはしない、できない、という話だと認識しています。

磯貝委員

経済状況がデフレ社会からインフレ社会に変化している中で、数年前はデフレだからコストもあまり上がらなかったが、最近ではコストが上がるようになったため、支出増が続くという見通しをつけたということも一つの要因だと認識しています。

人件費も上がっており、それと同時に売上高が減っていき、収入減の傾向も見られています。さらにコスト増が進むとそれだけ収支は悪くなり、それに加えて、施設の老朽化への対応として設備投資は、事業の維持のために必要不可欠だという状況になったので、このように赤字収支の結果になったと、そういう説明だと認識しています。

長岡委員長

そういうことだと思います。中野先生、よろしいですか。

中野委員

おっしゃるとおりだと思います。投資や更新まで話さなくても、赤字の見通しにならざ

るを得ない、ということですね。

長岡委員長
山下委員

そうだと思います。他にはいかがでしょうか。

まず資料2のP.4のパブコメ結果についてですが、(3)の料金に関する意見が多く寄せられたと記載されていますが、具体的にどのような意見が寄せられたのか教えていただきたいです。また、パブコメ結果は中期計画やビジョンへ反映されるのかお伺いしたいです。

経営戦略・危機管理室担当課長

こちらは速報版ということでお示しておりますが、料金については、市民生活に沿って検討を進めてほしいというご意見などが多くありました。

また、計画への反映については、パブコメ結果の精査中ではありますが、これまでのご意見により、大きく変更をかけていくということはないと想定していますが、一部語句の使い方等については反映をしていく必要があると考えております。

西川委員

今のご質問は非常に大切なことだと私は思いました。

今のご質問でお聞きしたかったことの一つは、料金改定についてポジティブな意見とネガティブな意見の比率はどの程度か、だと思います。

計画への反映についても重要なご指摘で、パブコメを実施した以上は、市民の意見をしっかり咀嚼していくことが必要であり、現時点の計画・ビジョンで未反映であれば、我々にその情報を提供していただき、議論をしながら大事な意見は活かしていかなければいけないものだと思います。

この2点については非常に大切な質問だと思うので、現状を改めて説明していただき、委員の中で意思共有していく必要があるのかについてご意見をいただきたいと思います。

経営戦略・危機管理室担当課長

現時点では、いただいたご意見を細かく分けて整理をしているところです。

これから議会等にも諮ってまいりますので、整理できましたら皆様にもご提供していきたいと思っております。

長岡委員長

我々委員も意見の内訳を把握できるということですか。

経営戦略・危機管理室担当課長

そうです。

長岡委員長

意見だけではなく、「参考にします」や「採り入れます」といった市の対応方針についても提示されると思ってよいですか。

経営戦略・危機管理室担当課長

はい。今回のパブコメは電子でも受け付けていることもあり長文の意見が多く見られました。分かりやすく簡略化する作業もありますので、整理できましたら共有したいと思います。

長岡委員長

是非お願いいたします。他にはいかがですか。

伊藤委員

ご説明ありがとうございました。

資料4の全体的な感想ですが、ページ数は多いと思いますが、表やグラフがあるため視覚的に分かりやすく見やすいものだと思います。

資料4のP.68の右下の指標について、局公式Xのフォロワー数とインプレッション数の今後の目標数値が具体的に示されていますが、どのような根拠で設定されたのか教えてくださいいただけますでしょうか。

サービス推進課長

Xについては今年度6月頃から力を入れて取り組んでおりまして、現在2,000人のフォロワー数となっており、およそ年間1,000増えると想定し、4年間で4,000人が増えて

6,000人以上、という計算をしております。

インプレッションに関しても同様で、力を入れてから5ヶ月間で約48万のインプレッションを取っているの、計算上は年間120万弱ですが、現在の力の入れ方で推移できればおおむね年間120万以上に増えていくと想定しています。

長岡委員長 他にはいかがですか。

磯貝委員 資料2のP.4のパブコメ意見について、浸水対策については意見が28件あったと示されていて、浸水対策について先ほどご説明があり、降雨量の発生確率に応じて設定しているという話でした。過去の実績で80年に一度の降雨に対しては4年に一度ということですが、近年、毎年のように記録的な大雨が発生している中で、過去の実績に基づく対応で本当に十分なのかどうか、そういった心配は市民の方は感じているのだと思います。そういったことを少し意識していただきたいと思います。この記載については問題ありません。

また、計画書に含めることはできないと思いますが、水道事業とは全く異なる事業ですが、全国に多々ある地方銀行について金融庁は合併に向けた補助金施策をしていました。今は、システム統合を進めるための補助金施策です。つまり、エンティティ・法人を一つに統合しようという話ではなくて、システムの統一化をすることで、コスト削減しながら地域の金融機関として生き残るように、ということを金融庁が言っているのです。

例えばコールセンターのAI活用について、システムやAIを共通化して進めることもできるのではないのでしょうか。しかもAIは経験さえ積み重ねれば進化していくものですので、システム面における統一化をこの計画期間において、川崎市だけでは何とかできる話ではできないと思うのですが、検討してはいかがでしょうかと思うところです。

長岡委員長 ありがとうございます。ビジョンのところで検討します、という表現があってもよいとは思いますが、すぐにシステム統合することは難しいかと思います。まずは、システム更新に併せて記載はあってもよいかもしれないので、ご検討ください。

他はいかがでしょうか。

それでは私から、資料4のP.42で、上下水道一体での耐震化について、右の表については、現在337施設の対象施設がある中で、耐震化済みの施設が143施設、ということですが、これを上下水道一体での目標として掲げないのでしょうか。

水道計画課長 委員長のご指摘とおりで、上下一体の耐震化計画を策定するようにと国交省から求められていまして、既に策定して公表しております。令和11年度までの5年間の目標となっており、対象となる337施設のうち令和11年度に244施設（72.4%）を耐震化するという目標を掲げています。

ただし、各年度で示そうとすると、水道と下水の方で工事発注が別ですので、5年間の目標としては示せますが、各年度の目標としては示すことが難しい状況です。

長岡委員長 算出できるような気もしますが、難しいのですね。

また、今はコラムという位置付けですが、コラムではなく、より目立つ位置付けにしてもよいと思います。

水道計画課長 指標として取り扱っているわけでないので難しいです。

長岡委員長 参考として5年間の目標として、という示し方でもよいと思います。

水道計画課長 検討させていただきます。

長岡委員長
事務局
(経営戦略・危機管理室長)

それでは、議題３に入る前に休憩がありますので、事務局にお返しいたします。
ただいまから、10 分間の休憩にしたいと存じます。委員の皆様におかれましては、10 分後に再開いたしますのでお席にお戻りいただきますようお願い申し上げます。
なお、次の議題は「水道事業及び下水道事業の料金制度等のあり方について（答申案）」となりますが、白鳥事業管理者につきましては、諮問者のため、退席させていただきます。
それでは、休憩に入ります。
＜非公開＞

長岡委員長
事務局
(経営戦略・危機管理室長)

以上で予定した議題は終わりましたので、本日の会議を終了したいと思います。では、事務局に進行をお返しします。
長岡委員長ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。
今年度の経営審議委員会については、本日が最後と開催になりますが、議題３にありましたとおり、2月上旬に水道事業及び下水道事業の料金制度等のあり方に関する答申を長岡委員長からいただく予定です。
来年度の経営審議委員会の開催日については、後日、皆様と日程調整をしながら決定したいと考えていますので、その際はご協力をお願いします。
それでは、本日はありがとうございました。